

令和5年度学校評価（最終評価）

<p>本年度の重点目標</p>	<p>(1) ニーズに応じた教育内容の充実                  (2) キャリア教育の充実                  (3) 視覚障害教育の専門性の向上                  (4) 相談体制の充実                  (5) 関係機関との連携                  (6) 防犯・防災計画の整備                  (7) 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止</p>		
担当	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
幼稚園部	<p>・自分の気持ちを相手に伝える力を育てる。</p>	<p>・幼児の気持ちを受け止め、感情を言葉にしたり、伝え方の模範を示したりする。</p>	<p>・幼児の自発的な対話を大切にし、教師が適宜模範を示すことで、幼児が適切なソーシャルスキルを身に付けた。</p>
小学部	<p>・キャリア教育のポイントを意識した指導を行い、児童の「挑戦する力」「考え抜く力」「協力する力」を育てる。</p>	<p>・特別活動を要に各教科等でも体験や探究学習を取り入れる。                  ・①見通し②中評価③終評価を扱う学習過程を設ける。</p>	<p>・体験学習を基に児童が主体性や探究意欲を発揮しながら学べた。                  ・概ね実践できた。学習評価の時期や観点については研鑽を継続する。</p>
		<p>・特別活動を要に、体験学習の機会を豊富に設ける。                  ・係活動を通して、自他の役割に関心をもてるようにする。</p>	<p>・体験学習を通して児童が学びを実感し、知識や思いとして表現できた。                  ・自己の役割や活動への理解を、言葉や態度で表現、実践できた。</p>
中学部	<p>・生徒ができた、分かったと学ぶ喜びを得られる授業づくり。</p>	<p>・生徒一人一人の実態を的確に把握し、共通理解をもって指導に当たる。</p>	<p>・指導の難しい生徒についてケース会議を催した。指導方法などについて一定の共通理解を図ることができた。</p>
		<p>・個に応じた指導の充実を図るために、教材作成やタブレット端末の活用等に取り組む。</p>	<p>・生徒の実態に即した教材作成を適宜行うことができている。タブレット端末の活用についても、随分と身近になってきている。</p>
高等部	<p>・新学習指導要領に基づいたキャリア教育の推進。</p>	<p>・卒業後を見据え、一人一人のもてる力を伸ばし、学力、生活力と職業能力を養う。</p>	<p>・生徒個々の情報交換を密に行い卒業後のビジョンを職員間で共有したことで、指導目標や指導内容を改善することができた。</p>
	<p>・授業力・専門性の向上。</p>	<p>・障害の状態や特性、個人の経験や個性に応じた課題の設定や効果的な授業づくりに努める。</p>	<p>・生徒個々の学習状況や生活状況などについて適宜情報交換を行ったことで、重複学級では食事や排せつコミュニケーション力などの個の課題に応じた授業づくりや指導が展開できた。</p>
教務部	<p>・すべての教育課程の幼児児童生徒が主体的に学習等に取り組むことができるように、指導・支援に関する研さんを図る。</p>	<p>・各部等において、幼児児童生徒の実態把握を丁寧に行い、職員間の共通理解を図る。</p>	<p>・各部の会議やケース会等を通して、個別に実態把握を行い、指導・支援の方策を検討して共通理解を図った。</p>
	<p>・</p>	<p>・各部等において、幼児児童生徒が主体的に学習等に取り組めるように、発達段階等に応じた指導・支援について検討する。</p>	<p>・視覚障害専門研修会（夏季）では、「重複障害」の理解と対応について講義・協議形式で研修を行った。実践研修につなげることが今後の課題。</p>
I C	<p>・学校規模に合わせた図書環境の整備と運営体制を整える。</p>	<p>・学校規模縮小に合わせた新しい貸出や返却の方法を全校に周知・定着を図る。</p>	<p>・学校規模が縮小傾向でも持続可能な運営方法に移行することができた。鶴舞中央図書館点字文庫と連携を図った</p>

1 支援部		外部図書館やインターネット図書館の情報収集及び利用促進を行う。	図書紹介等に取り組んだ。今後も外部図書館と協力して、子どもが魅力的な本を手に取り易い環境作りを計画している。
	・一人一台端末の貸出環境を整え、利用を推進する。	・担任・教科担当等に貸し出しに関する手順を明示し、一人一台端末の貸与・利用を推進する。	・端末の貸付手順や専用ペンシルの利用などの環境を整え、昨年度より多くの児童生徒に貸し出しすることができた。端末を正しく活用するために外部講師と連携した生徒向け情報モラル講習を実施した。
教育支援部	・地域の視覚障害教育・支援担当者との連携強化。	・各種研修会や名盲サマースクールへの地域の先生方の参加を促し、盲学校とのつながりを深めていけるようにする。	・長期休業中の研修会やサマースクールの参加申し込み方法を全面的に改善したことで、外部からの参加者数が昨年度よりも増加した。地域の教育担当者に盲学校へ足を運んでもらう機会が増えたことで、視覚障害児者への支援や盲学校について、理解を深めていただけたのではないかと感じている。
		・訪問相談や通級指導で関わる視覚障害児者を担当する支援者との連絡を密にし、連携を深める。	・今年度は、これまで以上に地域の教育担当者との連絡を密にするよう心掛けて地域支援活動を行った。これにより、担当者間の連携がスムーズになり、地域の先生方が普段悩んでいることや困っている事象について、電話やメールで相談していただく機会も増えてきている。
進路指導部	・効果的なキャリア教育・就職支援を目指し、保護者・職員への支援充実を図る。	・ニーズの高い保護者向けの講演会、座談会を実施する。また、希望者には個別に進路相談ができるよう継続して個別進路相談会を実施し、きめ細かな支援を行う。	・保護者対象の講演会と座談会を実施し、アンケート結果より参加者からは好評価を得た。個別の進路相談にも申し込みがあり、対応することができた。来年度も保護者のニーズとこちらから知ってもらいたいことを整理してテーマ設定していく必要がある。
生徒指導部	・問題行動やいじめ等の早期発見、早期対応。	・「こころとからだのアンケート」を実施し、いじめや悩みに対して早期発見・早期対応に努める。	・アンケート結果をもとに個別の面談等を行ったり、今後の指導方針を検討したりと早期に対応することができた。
	・防災への意識向上と体制の整備充実。	・火災や地震を想定した避難訓練を通して、災害時における対応を確認する。	・火災や地震を想定した避難訓練の実施で避難経路等の確認ができた。また、新しいトランシーバーの使用法の研修をしたり、配置を変更したりと災害対応の充実を図ることができた。
保健体育部	・配慮を要する幼児児童生徒への適切な対応。	・幼児児童生徒の刻々と変わる状況を随時発信し、共通理解を図り、適切な対応ができるようにする。	・本年度から始まった医療的ケアや配慮を要する幼児児童生徒について関係者間で情報共有ができ、適切に対応することができた。
	・安心安全な給食の提供と食育の推進。	・給食を始めとする食への安全意識の向上を図るとともに食育に向けての活動を推進する。	・配膳前チェックやエプロン等の着用品が浸透し、安全意識の向上が図れた。また、保健給食委員会活動や普通科の自活の授業などで食育の活動が進められた。
広報・渉外部	持続可能なPTA活動を目指して、現在の活動を見直し、今後の方向性と取組を決定する。	・PTA活動の取組について、実施するものを精選し、内容概要や役割を決める。 ・PTAのしおりや会則、規約についての検討と改正を行う。	・昨年度までの取組を見直し、精選した。取組の内容概要と役割分担を明確にし、来年度の役員へと引き継ぐ準備ができた。 ・委員会を廃止する方向で、会則の改正案を作成した。来年度の総会で提案する。

寮務部	・ 寄宿舍生活支援の向上。	・ ADLチェックリスト（寄宿舍作成，自立活動研究作成）を用いて舎生の実態把握を行い、課題に応じた寄宿舍支援記録を作成する。内容は職員間で共有し、一貫性のある指導、支援に努める。	・ 年度初めに各舎生に対して、寄宿舍支援記録を作成し、実態や課題について情報共有しながら、支援にあたった。年度間での引継ぎにも活用し、来年度につなげていく。
	・ 他校寄宿舍との連携の強化。	・ 中部地区盲学校や県内特別支援学校寄宿舍との研修を実施、参加することを通して、定期的に情報交換が行える体制を整える。	・ 長期休業中に中部地区盲学校寄宿舍との研修会を実施した。本校だけでなく、参加校からも継続実施を希望する声が挙がり、来年度についても実施する運びとなった。今後も連携を深めながら、よりよい寄宿舍運営を探っていく。
理療部	ニーズに応じた教育内容の充実。	拡大読書器や録音機器の操作方法、点字の読み書きなどの必要性について助言、支援を行う。	・ 必要とする生徒に、視覚補助具や点字など必要な支援ができた。今後は、中失生徒へ点字を身に付けてもらうための支援の方法について工夫がより必要となる。
学校関係者評価を実施する主な項目		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ キャリア教育の充実</li> <li>・ 関係機関との連携</li> <li>・ 視覚障害教育の専門性の向上</li> <li>・ 勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止</li> </ul>	